

観察会・片波川源流域の伏条台杉群

2019. 9. 20 (金)

片波川源流域は「京都府自然環境保全地域」であり、案内人同伴で立ち入り可能な伏条台杉群生地は幹回り15mの「平安杉」樹高32mの「谷守杉」をはじめとして巨大芦生杉250本を有している。平安時代から禁裏御用地として上桂川の水運を利用し、平安京造営などに良質の建材を供給してきた歴史を持つ。



案内人 西さん



案内人 竹内さん





伏条台杉は長い枝が冬に雪で垂れ下がり、
地面に着き根を下ろして新しい株を成長する事
により繁殖していく。

宿杉→
数種類の植物が台杉に着生している



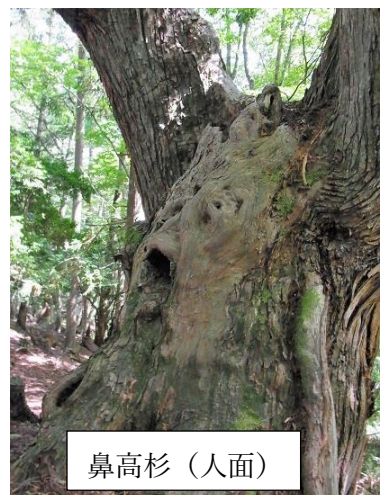
↑ 根元から2〜3mで伐り出された杉は
切り株に新しい枝を伸ばし次の数本の幹を作る



盤取杉
板状に切り取った跡の残る杉



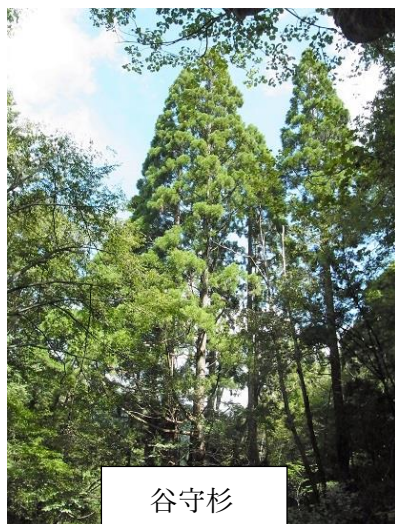
杉林に続くブナ林



鼻高杉 (人面)



大主杉



谷守杉



谷を下り幹回り 15,2mの平安杉へ



谷守杉ののびやかな姿を眺めつつ、やや急な
段差の高い段道を下っていくと
テツカエデが沢山青い葉をしげらせている。
小さなキッコハグマの姿も散見した。



もうすぐ！もうすぐ！と励まされつつ 35 万年前の海底が隆起した地層が現れたチャートを見学する。

想像以上に整然とした美しいチャートに魅了された。地層の片をいくつか持ち帰った人も。



昼食は展望のきく場所より日陰へと移動

